

メキシコは、2019年度の自動車生産台数が約400万台と、世界第6位の自動車生産国である。11年以降、日系企業の進出が急激に増加。7月のUSMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）発効を背景に、有望な投資先として注目度が高まっている。

当社は1962年のペルー進出を皮切りに、中南米諸国で数多くのプロジェクトを手掛けてきた。2004年にメキシコ支店を開設、日系自動車生産関連施設の建設を主に成長を遂げてきた。特に11年に受注したグアナファト州サラマンカ市の自動車生産一貫工場プロジェクト以後、さらに事業を飛躍させた。自動車生産一貫工場の建設は、約265鈔にも達する畑の造成工事から始まった。希少樹木や小動物保護、メキシコ特有の膨張土置き換えなど、過去に

海外建設協会

プロジェクト便り

◆メキシコ

自動車生産工場建設プロジェクト

日本品質を提供し共に発展

類を見ないスケールの造成工事となった。

同プロジェクトはメキシコで過去に経験がない大規模な工事が赴いた。多くは海外駐在の経験が無く、苦勞も多々あった。だが中南米での仕事にたけた当社の熟練技術者が指導しプロジェクトを進めた。

最も重視したのは日本水準の安全管理指導と人材育成。関係

フジタ



サラマンカ市で建設した自動車生産一貫工場

者全員による日本式ラジオ体操、体調問診、薬物検査、個別安全教育、作業内容・手順を確認して作業所の一日が始まる。加えて安全に決して妥協しない意識を持つことを徹底指導した。

一連の取り組みの成果もあり、同プロジェクトは無災害で竣工を迎えた。結果として当社のナショナルスタッフや協力会社の職員は安全水準と意識が飛躍的に向上し、日本の「安全文化」が浸透した。これは現在も薄れることはない。

同プロジェクト以後、多数の日系企業がメキシコに進出し、その多くが広島県の企業だった。これを機に14年11月、広島県はグアナファト州と友好提携を結んだ。15年8月には広島グアナファト親善協会が設立され、文化交流が盛んに行われた。これらの活動の成果もあり、東京五輪・パラリンピックに向けてさまざまな競技でメキシコ選手団の事前合宿を広島県で受け入れることになった。友好提携は州から国家のつながりに発

人材育成、社会貢献など深まる交流

広島のイベントでパレードに参加するメキシコ関係者



サラマンカ市のプロジェクト以降も数多くの実績を重ねノウハウも蓄積した。15年にアグアスカリエンテス市、17年にはアパセオエルグランデ市の自動車生産一貫工場建設プロジェクトに力を発揮した。

建設業の枠にとどまらず、当社はさまざまな挑戦を続けている。水資源が貴重なメキシコでは、生産工場の給排水処理と処理水の再利用は重要な課題になる。水に関連するソリューションの提供に向け現地法人を設立。水質調査ラボは国家公認を受け万全の体制を整えた。

サンミゲル・デ・アジェンデ市で工業団地の開発・運営を行い、隣接するケレタロ市では現地で活躍する日系企業の駐在員を支え、かつ地域に密着した事業として、ホテル・サービスアパート運営を今年から開始した。メキシコ人スタッフを研修生として日本に受け入れ、現在4人が日本の作業所で経験を積んでいる。技術を伝承・交換しながら今後も、持続的な品質向上の実現と一層の社会貢献に取り組む。 (国際本部本部長代理・橋本一郎)